

## サマースクールを振り返って

国際学部 4年 アギーレ ナルミ

私たちの身の周りには、多様な文化的背景を持つ人々が多く生活している。法務省によれば、平成 29 年度末時点で、日本に在留する外国人数は 256 万 1,848 人おり、前年度末に比べ 17 万 9,026 人の増加となり、過去最高を示している。身の周りで外国人を目にすることは増えたものの、彼らと直接触れ合う機会は決して多くなったとは言えないだろう。そこで、世界に目を向けるきっかけづくりの一つとして、そして実際にふれあってもらい、子どもたちの国際感覚を養うことを目的に、毎年子ども国際理解サマースクールを開催している。

今年は、子どもたちにより身近に「世界」「外国」「文化」を感じてもらえるように、「世界の小学校生活」をテーマにした。外国人学生の協力もあり、ウズベキスタン、中国、ブラジル、ベトナムの四カ国が集まり、パワーポイントで各国の小学校生活を発表してもらった。発表では、学校が始まる時期や時間割、給食、休み時間の過ごし方などに触れてもらい、子どもたち

が、自分たちの学校生活との相違性と共通性のどちらも見つけ出せるような工夫をした。発表内容に対して、子どもたちがどのくらい驚いて楽しんでくれるのか、子どもたちがどのような反応をするのかが少し不安だった。しかし、そんな不安を吹き飛ばしてくれるくらい、子どもたちは熱心にメモを取りながら、楽しそうに聞いていた。

日常で、子どもたちが外国人や外国の文化に触れる機会は少ない。その点で、このサマースクールは、子どもたちにとって貴重で有意義な時間であったのではないと思う。二時間という少ない時間で、全てを伝えるのには限界がある。しかし、日本以外の国に興味を持つ一つのきっかけとして、何らかの役割が果たせたのではないだろうか。子どもたちには、「あ、そういえば、こんなことも学んだっけ!」と頭の片隅にでも置いて、彼らの何かのきっかけになればと思う。今後も、そんな「きっかけ」を与えられるような活動を続けていきたい。

## サマースクールの要約・内容

国際学部国際学科 3年 アジモフ サルワルジョン

私は去年の夏休み、国際学部の田巻先生が指導する「サマースクール」プログラムに参加させてもらった。このプログラムは、宇都宮大学の留学生が自分たちの国のことを日本の小学生子供たちに紹介するようのものであった。

ウズベキスタン出身で、現在宇都宮大学在学中の私も母国ウズベキスタンの紹介をした。私が発表した内容には主に、ウズベキスタンの歴史や文化、ウズベキスタンの小学校制度や小学生の生活などの部分が含まれていた。発表の前

半では、ウズベキスタンの最近の歴史はソ連と密接につながっていること、ウズベキスタンは昔の貿易路シルクロードの中核に位置していたことなどを話した。後半の方ではウズベキスタンと日本の小学校制度の相違点に触れ、ウズベキスタンの小学校は日本のそれと異なって 4 年制であること、学期の始まる時期が 4 月ではなく 9 月であることなどについて話をした。発表が終わってから少し質疑応答の時間を設け、参加者の小学生たちが内容をどれくらい理解でき